

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第2号 畑作物

発行日 平成27年 4月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 小麦 融雪が早く気温が高めに推移していたことに加え、4月下旬より特に気温の高い状況が続く見込みです。このため地域によってはかなり生育が早まっています。減数分裂期以降の追肥や赤かび病防除については生育ステージを確認して適期に行いましょう。赤かび病の防除は、開花始期～盛期に必ず行いましょう。
- ◆ 大豆 圃場の選定を吟味しましょう。

小麦

1 生育状況

今年度は全体に根雪始めが早かったため根雪期間は平年並ですが、消雪が早かったことから越冬後の生育は良好でした。4月中旬前後は日照不足と湿害によりやや生育停滞した状況が見られましたが、4月下旬から気温が高く経過しており、生育は早まっています。また5月上旬にかけてかなり気温の高い状況が続く予想が発表されています。このため、生育ステージをこまめに観察して追肥や防除の作業スケジュールを確認しましょう。

2 病害の発生状況

雪腐病は山間地の一部を除き、全体的に発生・被害とも平年並です。コムギ縮萎縮病・ムギ類萎縮病についても、4月上旬の調査によると平年よりやや少ない発生状況です。

3 今後の管理

(1) 排水対策

圃場の排水口や明渠の点検補修を行い、スムーズに排水できるようにしましょう。

(2) 後期追肥の実施

減数分裂期以降の窒素追肥で、子実の充実とタンパク質含量の向上を図りましょう。ただし、生育量や品種によって追肥の有無、時期、量が異なります。

追肥の対応は、減数分裂期に生育栄養診断を行い、その結果に基づいて追肥量を判断しますが(表1)、地力を考慮し、圃場にあわせた判断が必要となります。無理に追肥を行って、倒伏や、生育にバラツキが出ないようにしましょう。また、地域によってタンパク質含量に差がみられますので、過去の実績を参考に追肥量を調節してください。

なお「銀河のちから」は止葉抽出期～穂揃期に窒素成分で4kg/10a 施用が基本となります(平成26年岩手県農業研究センター試験研究成果)。

表1 減数分裂期における生育目標値(上限値)と追肥対応

	品種	ナンブコムギ (目標値)	ゆきちから (上限値)
減数分裂期	診断項目・指標		
	草丈(cm)	55~65	55
	有効茎数(本/m ²)	450~550*	500*
	葉色(n-1葉のSPAD値)	36~44*	47
追肥対応	目標値(上限値)を超えるとき	追肥しない	穂揃期に窒素成分で2kg/10a
	目標値(上限値)の範囲内のとき	減数分裂期に窒素成分で2kg/10a	穂揃期に窒素成分で4kg/10a

注1) *印は、追肥対応のための主要な診断項目。減数分裂期は、約半分の有効茎の止葉の葉耳が出た時期を目安とする。この時期は出穂期の概ね10日前となる。

(3) 赤かび病の防除

開花始期～盛期に必ず薬剤防除を行います。2回目の防除は1回目の防除から7～10日後に行います。曇雨天が続く場合には、さらに追加防除が必要となります。小麦の開花は出穂してから1週間程度後が目安となりますが、年によっては大きく変動します。このため開花状況の観察をこまめに行い、適期防除に努めます。また、罹病穂の抜き取りは穂が緑色のうちに行いましょう。

表2 赤かび病抵抗性に応じた小麦奨励品種別の防除適期

品種名	赤かび病抵抗性	防除適期		
		開花期 (1回目散布)	1回目散布の 7～10日後	2回目散布の 7～10日後
ナンブコムギ	中	必須	曇雨天が続く場合 追加散布	—
ゆきちから ネバリゴシ 銀河のちから	中	必須	必須	曇雨天が続く場合追加 散布

大豆

1 圃場の選定

ブロックローテーションの場合は、排水不良圃場を除外するなど、圃場の選定を吟味しましょう。

2 過度な連作防止

過度な連作による病害虫の蔓延、地力の低下、雑草の多発などが問題となっています。マメシクイガ、シストセンチュウ、黒根腐病などは大豆の連作により発生リスクが高まりやすい病害虫です。大豆2作程度に対し、水稻2～3作程度が地力維持、病害虫対策の観点からバランスがよいという報告があります。長期的な展望を持って、ブロックローテーション等計画的な土地利用に努めましょう。

3 排水対策

大豆は初期の湿害発生が収量に大きく影響する作物です。圃場周囲の排水溝や圃場内の明渠、弾丸暗渠・サブソイラー等の排水対策を行い、良好な初期生育を図りましょう。

4 播種適期

播種期は、早限を出芽時に晩霜の心配のない頃、晩限を霜による強制登熟で未熟粒が多発する心配のない頃に設定します。概ね、県北部では5月中下旬、県中部では5月中旬から6月上旬、県南部では6月上中旬が播種適期となります。

5 適正な栽植密度の確保

畦間は70cm程度を標準とし、中耕培土等の中間管理や収穫に用いる機械の幅に応じて作業が効率に行えるように設定します。品種ごとに好適な栽植密度とするためには、株間の調整が必要です。

表3 普通大豆の品種別栽植密度と播種量

項目	ユキホマレ	ナンブシロメ	リュウホウ	青丸くん	シュウリュウ
栽植密度(本/10a)	2万～3万	1万～1万2千	7千～1万5千	1万～1万2千	1万～1万5千
畦間×株間(cm)*	70×14～9 30×30～22	70×30～24	70×40～20	70×30～24	70×20～30
播種量(kg/10a)	6～9	2.5～3	2.5～5	2.5～3	3.5～5.3

注) *は、畦間を70cm、1株2本立てとした場合を示した。

「ユキホマレ」の麦後栽培では畦間30cm前後の狭畦密植とする。

「リュウホウ」は、播種期により栽植密度を調整する(晩播ほど密植とする)。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]
[~6月15日]
「無理するな 疲れたときは NO！作業」

次号は5月28日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。